

平成 30 年度病虫害発生予察 特殊報第 3 号

平成 30 年 8 月 1 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

1 病 害 名 黒腐菌核病

2 病 原 菌 名 *Sclerotium cepivorum* Berkeley

3 発 生 作 物 白ネギ

4 発 生 経 過

平成 29 年 4 月中旬頃に大分県内の白ネギにおいて、葉鞘部に黒色小粒の菌核が多数付着してかさぶた状になった株が確認された（図 1、図 2）。該当症状の株から分離された菌（図 3）を農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、本県の白ネギでは未確認の黒腐菌核病と同定された。

5 県内の発生状況

- (1) 初確認年月日：平成 29 年 4 月 19 日（白ネギ）
- (2) 発生確認地域：大分県北部（豊後高田市）
- (3) 発生確認面積：6a

6 病徴と発生生態

下位葉が黄化して生育不良となり、病勢が進展すると枯死する。根は腐敗して株が引き抜きやすくなる。株の地下部で黒色ゴマ粒状の菌核を形成し、病勢が進展すると黒いかさぶた状になる（図 1）。

本菌は比較的低温で生育する菌である。本菌の発育適温は 15℃～20℃で 25℃以上では発育しない。本菌はネギの他、タマネギ、ニンニク、ラッキョウ、ニラなどに感染する。罹病株に生じた菌核が伝染源となり、土中の菌核から生じた菌糸が根や地際部から感染して発病する。菌核は土中で 4 年以上生存する。

本病とよく似た病害として小菌核腐敗病がある。小菌核腐敗病は楕円形から不整形で扁平からやや盛り上がった菌核を多数形成する。発生時期は本病と同時期であるため、診断時は注意が必要である。

7 国内での発生状況

本病害は昭和 34 年に栃木県のタマネギで初確認されており、大分県ではニラで発生が確認されている（平成 3 年 2 月特殊報）。関東地方ではネギの重要な病害となっており、近年では鳥取県のネギでも発生が報告されている（平成 22 年 8 月特殊報）。

8 防除対策

- (1) 菌核は土中で4年以上生存するため発生地では連作を避け、多発圃場は4～5年間ネギ属以外の作物を栽培する。やむを得ず連作する場合は土壤消毒を行う。
- (2) 土寄せ前にアフエットフロアブルやモンガリット粒剤等で予防的に防除する。
- (3) カラシナ（緑肥）等による輪作は発病抑制効果が高いため、ほ場が空く場合はできる限り緑肥作物等を栽培して輪作を行う。
- (4) 菌核は重要な伝染源であるため、被害植物は抜き取りほ場外で適切に処分する。

(参考文献)

1. 鳥取県病害虫防除所（2010）平成 22 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号．黒腐菌核病
2. 茨城県農業総合センター園芸研究所研究報告（2013）第 20 号 p27-34．ネギ黒腐菌核病の総合防除法
3. 日本植物病害大辞典 p518. 黒腐菌核病
4. 大分県三重・宇佐病害虫防除所(1991)平成 2 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号．黒腐菌核病（ニラ）
5. 農業総覧病害虫診断防除編第 3-②巻野菜/葉茎菜ネギ病気 p11-13



図 1. 菌核の付着状況



図 2. 罹病株



図 3. 菌叢と菌核（PDA 培地 20℃ 18 日後）